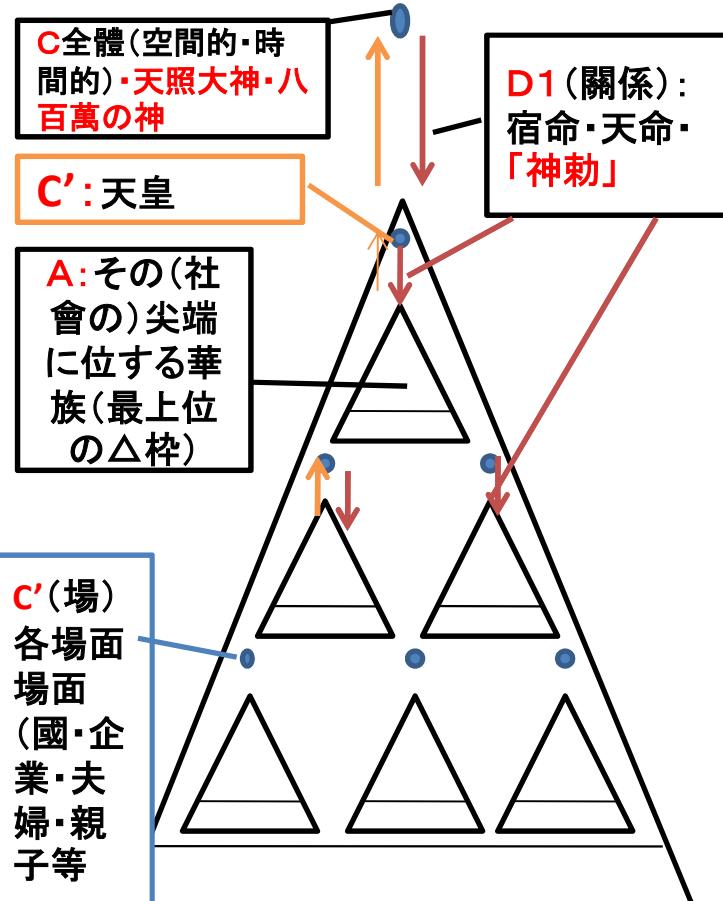


*「日本語の神といふ言葉は西洋人のそれとは異り、絶対(C)的な唯一神を意味しはしない。さういふ抽象性はないのだ。それはもつと具體的なものの比喩なのである。神とはそもそも最初から『神のごときもの』であり、『尋常(ヨノツネ)ならず(Cか?)すぐれたる徳(コト)のありて可畏(カシコ)き物を迦微(カミ)とは云(イフ)なり』(本居宣長)で、日本人は人間(相對)が神(C:八百萬の神)になることを少しもかしいとは思つてゐないのだ」(『象徵天皇の宿命』麗評別)…かうした神道的性質の「神」を、恒存は以下のC的概念として捉へ右項で、「完成せる統一體としての人格」論を展開してゐる様だ。



「完成せる統一體としての人格」論で考察する恒存の天皇觀。「」内が恒存文。()内は吉野注。

*「ぼくにとって問題なのはエゴイズム(A:相對)の處理なのですよ。個人のエゴイズム(A:相對)といふのは、ときには國家(c':上位的相對)の名において押さへなければならない。それなら國家(c':上位的相對)のエゴイズム(A)といふのは何によつて押さへるかといふと、この原理は、天皇制(非絶対C=A相對)によつては出てこないだらう。日本の國家(c')のエゴイズム(A)を押さへるといふことは、天皇制(c'=非絶対C=A相對)からは出てこない。ぼくは天皇制を否定するんじやなくて、天皇制(c'=非絶対C=A相對)ともう一つ併存する何か(相對を超えたるもののか=C)がなくちやいけない。絶対天皇制(相對Aの絶対C化)といふのは、どうもまづい(中略)西洋の旧約聖書の場合、もちろんセム族といふ一民族の所産で、その限界はあるけれども、とにかく世界創造、人間創造といふ普遍性(C)を持たせてゐる。ところが、日本の神話といふのは、日本列島(A:相對)、日本人の創造(A:相對)しか説明できない(普遍性Cがない)。だからクリスト教につけといふ意味じやないけれど、やつぱりわれわれは、もう少し二重に生きる道(即ち、「完成せる統一體としての人格」論)を考へなくちやいけない。〔貴族(△枠)の頂點天皇c'。それを超えたるものとして八百萬の神Cの設定(二元論)といふ事か?しかし、八百萬の神はそもそも日本の「一元論」を支へてゐる迦微(カミ)のであつて、その「一元論」を統率する倫理觀が「拂ひ淨めて和に達する」なのでは?この矛盾的關係を探究せよ!〕⇒迦微(カミ)のC(全體)化か?天皇制(c'=非絶対C=A相對)の必要と、それを超える—優位といふ意味ぢやなくて—他の原理を立てなければならないんだけど、自由主義とか民主主義(近代化概念=相對界)といふのではだめなんだ。(中略)」

『教皇無謬説』といふのがあるでせう、しかし、教皇(c'=非絶対C=A相對)は事實あやまちを犯してきましたよ。でも、それは地上教會(非絶対C=A相對)のあやまちだよ。たとへば、ジャンヌ・ダルクを魔女扱ひにした。その地上教會(非絶対C=A相對)のあやまちといふのは、後世の同じ地上教會(非絶対C=A相對)がなほすことができる。あるいは地上教會(非絶対C=A相對)は永遠に間違ひしつぱなしになるかもしれない。でも、それは天上教會(C)によって裁かれる、といふことがある。

しかし、天皇が天上教會(C)なしの地上教會(非絶対C=A相對)の最高權威(即ち天上教會C代はり)とすると、ボロ(A:相對的行爲)を出すわけにはいかない。天上教會(C)のごとく振舞はなければいけない。そこに非常にむずかしさがあるし、ちょっとでもボロを見せれば、大正天皇が勅語をまるめてのぞいた(ボロA的行爲を見せた)といふと、もういけないんだ(絶対Cの相對A的墮落化)。かういふことをやつたら大變なことになつちやふ(天皇無謬Cの崩壊)。天皇(非絶対C=A相對)が絶対にボロ(A:相對的行爲)を出さずに済むかといふ問題ですね(A相對が相對A的行爲を犯さずに済むか)」(『文武兩道と死の哲學』:對談・三島由紀夫。昭和四十二年)(P119『滅びゆく日本へ』福田恒存の言葉)。

*「專制君主制と立憲君主制とを問はず、かつて貴族階級に擁せられてゐない君主といふものはなかつた。天皇の、あるいは一般に君主の、個人的人格は貴族階級によつて形づくられる。天皇は個人になり、個人として生きる場所を、いはば私たちにとつての社會(A)を、華族との交際のうちに見出す。あるいは私たちの社會はその尖端に位する華族(最上位の△枠)において天皇(c')と接触し、さうすることによつて、天皇(c')を國民生活(A)のうちに取入れる。それが正常な在り方といふものであらう」(『象徵天皇の宿命』麗評別)(P122『滅びゆく日本へ』福田恒存の言葉)。